

有害鳥獣豆知識

～ 野生鳥獣から畑を守るために ～

目次

芽室町の被害と対策… 1

エゾシカのこと…………… 3

ヒグマのこと…………… 5

アライグマのこと…… 7

キツネのこと…………… 9



発行 芽室町農林課
監修 帯広畜産大学

農作物有害鳥獣に関するご相談・お問い合わせは

芽室町農林課農産係

〒082-8651 芽室町東2条2丁目14番地

Tel 0155-62-9725 Fax 0155-62-9920

E-mail n-nousan@memuro.net

芽室町の被害と対策

芽室町にいる有害鳥獣は？

- エゾシカ、ヒグマ、キツネ、アライグマ、野ウサギ、カラス、ハトなど

芽室町の被害は？

- 春の芽が出る時期と、秋の実がなる時期が多くなっています。
- エゾシカによる被害が約7割となっています。
- 小豆、てん菜の被害が多くなっています。



ヒグマによる被害

エゾシカによる被害

町はどんな対策をしているの？

- 町有害鳥獣駆除員による巡回
 - ・ハンターを雇用し、農業者からの通報に迅速に対応しています。
 - ・日々のパトロール、わなの設置・管理を行っています。
 - ・有害鳥獣対策に関する相談にも対応しています。
- 電気柵の設置、狩猟免許取得を支援
 - ・電気柵の購入費用の一部を助成しています。
 - ・新規の狩猟免許取得費用を助成しています。

自分の畑を自分で守る！

●野生動物の生態を知る

- ・生態を知ることによって考えられる対策もあります。
- ・自分たちで何ができるか対策を検討できます。

●電気柵を設置する

- ・かなりの効果があります。
- ・近隣農家との連携による設置はさらに効果的です。
- ・下草刈りなどメンテナンスが重要です。



●狩猟免許を取得して自ら捕獲する

- ・現場に一番近くにいるのは農業者です。
- ・狩猟免許を取得する農業者が増えています。
- ・わなによる捕獲は危険が少なく、24時間捕獲可能です。

みんなで協力しよう！

●関係者の相互理解

- ・農業者、ハンター、関係機関、それぞれが互いの役割を理解することが重要です。
- ・情報を共有し、地域一体となった対策が必要です。

●撃てない……捕れない……ときもある

- ・畑の真ん中で有害鳥獣を倒すと、暴れたり、搬出する際に農作物を傷つけたりする恐れがあることから、銃を撃てない場合もあります。
- ・ライフル銃の最大飛距離は2～6 kmとも言われます。見通しの良い平地などでは、事故の可能性があることから、撃てない場合もあります。
- ・相手は止まってはくれません。銃で撃ったからといって100%捕れるわけではありません。

エゾシカのこと



エゾシカの生態

エゾシカは、森林と畑との間を行き交うことから、生息地が農業生産現場と重なりやすく、被害を引き起こしやすい。芽室町においても、農業被害額が一番多い獣種となっています。

生態

- ・夏毛は茶色で白斑があり、冬毛は灰褐色です。
- ・オスは角を持ち、角は毎年生え変わります。

食性

- ・草食性で植物はほとんど何でも食べます。
- ・2～3時間採食し、2～4時間反芻するリズムを繰り返します。

繁殖期ほか

- ・出産期は5月下旬～7月上旬で、毎年1頭産みます。
- ・発情期は10～11月です。
- ・哺育はメスだけがします。

行動ほか

- ・警戒心が強いが、図太さも持ち合わせています。
- ・蹄はあまり丈夫ではなく、足場の悪いところを嫌います。
- ・2mの高さを飛び越えるほどの跳躍力を持っています。
- ・生息環境は多様ですが、森林から完全に離れて生活することではなく、草地が入り込んだ森林地帯に多く生息します。
- ・群れで生活しますが、オスとメスは別々の群れを作ります。一夫多妻性で、オスの一部はハーレムを形成します。
- ・冬眠はせず、冬には積雪の少ない暖かい地域に移動します。

エゾシカの足跡



一般的には主蹄と呼ばれる第3第4指のひづめ跡が足跡として残りますが、泥や細かい砂、雪の上には主蹄の後ろに小さな二つの副蹄の跡が残ることもあります。



横幅が5～6 cm、縦幅が7～8 cm 程度です。

北海道ではシカの足跡と見間違えるような野生の動物はいません。

エゾシカのフン

長さ1～2 cmの俵状の定型のものが複数見られるのが一般的ですが、食べた物などにより一塊の軟便や円盤状の糞がいくつかくっついたものも見られます。



エゾシカの食痕

ジャガイモやビートの食痕には切歯（下あごの前歯）の跡が残る場合があります、一本の歯の跡が5 mm～1 cm 程度、全体で3 cm 以上の幅です。

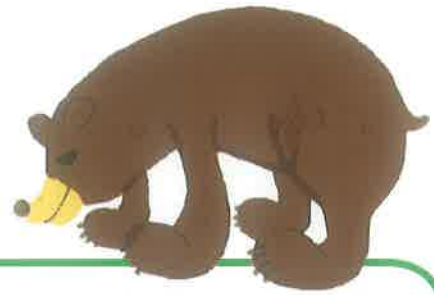
スイートコーンの食痕は、皮、芯及び実とともに採食し、実がところどころ食べ残されています。

エゾシカの対策

- ・銃による捕獲のほか、くくりわなによる捕獲も有効です。
- ・畑への侵入を防ぐため、電気柵の設置が効果的です。地面から40cm程度の4段張りか5段張りが効果的です。



ヒグマのこと



ヒグマの生態

ヒグマは、日本では北海道にのみ生息しており、国内では最も大きな陸上動物です。農作物のみならず、人畜への被害の可能性もあることから、近づけない、出会わないことも大切です。

生 態

- ・ 体毛は褐色からほぼ黒色まで変異があります。
- ・ 成獣では体長は200～230cm、体重は250～300kgにもなります。
- ・ 12月から3月にかけて冬眠します。

食 性

- ・ 雑食性で春にはフキ、ササなど植物の茎や根、夏にはノイチゴ類、秋にはコクワ、ヤマブドウ、ドングリなど植物を多く食べます。
- ・ 動物としてはアリやハチなどの昆虫類がほとんどですが、手に入ればシカの肉やサケなどの魚を好みます。
- ・ 農作物も好み、芽室町ではデントコーンやスイートコーン、小麦の食害が多くみられます。
- ・ 堆肥をあさって、その中に含まれる生ゴミなどを食べることもあります。

繁殖期ほか

- ・ 5月上旬～7月下旬に発情期がおとずれ、妊娠期間は約8カ月で、メスは冬眠中（1～2月）に出産します。

行 動 ほ か

- ・ 夜間のほか、日中も行動します。
- ・ 人を避けて、藪などに隠れて行動することが多いです。
- ・ 視力よりも嗅覚が優れています。

ヒグマの足跡



前



後

前足後ろ足とも指5本で、爪の跡もよくつきます。

前足の横幅が9cm以下は1歳未満、15cm以上はオスです。



ヒグマのフン

食べた物などにより、形をなさない軟便から形のある定型のもの（細長いソーセージ状のものや、馬糞のように丸いものなど）まで様々です。



ヒグマの食痕

特徴的な食痕が残るのはフキで、葉柄の中ほどを繊維質の外皮を残して食べます。シカは葉の開いている葉柄を噛み切り、葉柄を葉の付け根まで食べて葉を地面に落とします。

ヒグマの対策

- ・銃による捕獲のほか、箱わなによる捕獲も有効です。
- ・畑への侵入を防ぐため、電気柵の設置が効果的です。地面から30cm程度の間隔で2段張りが効果的です。起伏のある地形では隙間を作らないことが大切です。



アライグマのこと



アライグマの生態

アライグマはペットとして日本へ持ち込まれたものが野生化し分布域を広げていますが、農林業や生態系に影響を与えることから、法に基づく「特定外来生物」に指定されています。芽室町でも年々分布域は拡大しており、全町的に生息していると考えられます。

生 態

- ・ 体長は40～60cm、尾長は20～40cm、体重は4～10kg 程度です。
- ・ 体毛は灰褐色で目の周りにはっきりとしたアイマスク、尾には黒い輪模様があり、姿がよく似たタヌキとの見分けは比較的容易です。
- ・ 夜行性で、日中は、高い樹上や家屋の屋根裏などのねぐらで休みます。

食 性

- ・ 雑食性で、果実、野菜、穀類、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、魚類、昆虫など食物の幅が非常に広く、大食漢です。

繁殖期ほか

- ・ 1歳になるとメスは繁殖が可能になります。
- ・ 年に一回、3月～5月に1～6頭の子を産みます。

行動ほか

- ・ 水辺周辺の生息地を好みますが、森林、農耕地、市街地など幅広い環境に生息します。
- ・ 河畔林などに巣穴を掘って集団で生活するほか、樹洞や人家の屋根裏なども利用します。

アライグマの足跡

前足後ろ足とも指5本で、人の手足を小さくした様な足跡を残します。特に前足の足跡はもみじの葉状で縦幅がおおよそ5～7cm、横の幅が4.5～5.5cmほどです。



アライグマのフン

キツネ、タヌキのものと形状が似ているため、周辺に足跡が有る等の条件が揃わなければ、フンだけで断定することは難しいです。

アライグマの食痕

ジャガイモやビートの食痕には爪や歯の跡の小さな穴が見られることがあります。スイートコーンの食痕は、実だけきれいに採食し、食べ残しはほとんどありません。キツネではスイートコーンの皮を剥がす行動が見られますが、アライグマは皮を剥がさずに食べます。

アライグマの対策

- ・銃による捕獲が難しいことから、目撃情報、痕跡などを参考に箱わなを使って積極的に捕獲します。



キツネのこと



キツネの生態

食性

野ネズミ、鳥類、昆虫を主に捕食しますが、コクワなどの果実も食べます。畑の農作物やゴミを漁ることも多いです。

繁殖期ほか

年に一回3～5月に平均4頭の子を産み、夏まで家族群で生活します。9月頃に子は親から独立します。発情期は真冬の1月下旬から始まります。

行動ほか

市街地から高山帯まで様々な環境に生息しますが、森林と畑地が混在する田園環境を好みます。

キツネの足跡、食痕、フン



前足、後ろ足とも（親指の跡はほとんどつかないため）指4本で、爪の跡もよくつきます。全体的に丸みを帯びた菱形で、縦幅が5～8cm、横幅が4～7cmほどです。

ジャガイモやビートの食痕には爪や歯の跡の小さな穴が見られる事があります。

一般的には細長いソーセージ状のフンで直径はおよそ1～2cm程度です。フンにはエキノコックスの虫卵が含まれる恐れがあるので、取り扱いに注意が必要です。素手で触ることは絶対に避けてください。

キツネの対策

- ・銃による捕獲のほか、箱わなによる捕獲も有効です。
- ・コンポストは適正に管理し、餌になるような生ごみや農作物残渣を放置しないなど、キツネを寄せ付けないようにしましょう。